

## 資源のリサイクル活動による 地域社会活動・国際貢献活動 について

～活動理念～ ～すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために～

### アルミ缶回収による車椅子寄贈(平成12年～)

校内美化のために始めたゴミの分別作業から、「人の役に立つことはできないか」と考えたことが活動のきっかけ。アルミ缶の価値に注目し、回収した基金で車椅子を寄贈。平成12年から活動を始め、現在24年間で計約14.5tのアルミ缶を回収することができました。



### 老人ホーム慰問(平成13年～)

毎年、老人ホーム慰問の際に、車椅子寄贈を行っています。平成13年度に最初の1台(青い鳥1号)を寄贈し、昨年度(令和5年度)はリクライニング付の高性能な車椅子1台(青い鳥46号)を寄贈しました。



寄贈された車椅子

### アフリカのマリ共和国へ ジャージや運動靴を送る活動(平成18年～)



この活動は、高校入学時に購入した指定のジャージや運動靴を卒業時に寄付してもらいます。また、地域の方々や先生方が寄付してくれます。それらをアフリカのマリ共和国の子供達へ贈っています。マリ共和国はアフリカの西に位置する国で、乳児死亡率が1,000人出生あたり115人と小さな子供の死亡率がとても高い国です。

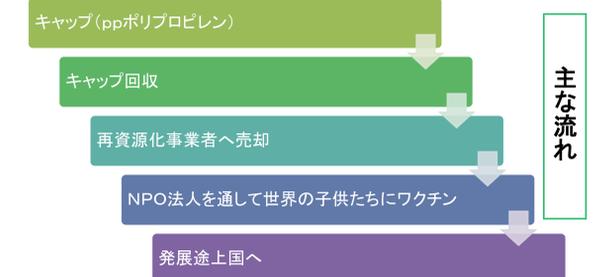
物資は全て私達の手で洗濯してから発送します。汚れのひどい運動靴は、ブラシを使って手洗いし、完全に乾かすために天日干しをします。また、ジャージなどの衣服は綺麗に洗濯してから箱詰めを行います。物資を晴天時に天日干して、完全に乾かすことでカビの発生防止を心掛けています。平成18年から始まったこの活動は18年目になりました。昨年10月に行った第16回発送式では、計324点、重さにして212kgの運動靴を発送しました。輸送費は全校生徒や職員の方々からの募金等で集めています。今後もこの活動を継続し、より沢山の子どもたちを笑顔にしていきたいです。



これまでの総数  
総支援物資…10405点  
総重量…3884kg

### ペットボトルキャップ回収による 世界の子供たちにワクチンを贈る活動 (平成20年～)

この活動は、平成20年度の先輩方が自分達の代で何か新しいことに挑戦したいという強い思いから始まった活動です。ペットボトルキャップは、良質のプラスチック(ポリプロピレン)から作られていて、熱処理などを施すことで、車のバンパーや建築資材等に再利用されます。回収方法は、学校で出たキャップを集めるはもちろん、地域の方からの寄付も多くあります。回収したキャップを再資源化業者へ委託しNPO法人を通してポリオワクチンが世界の子供達に届けられます。



これまでに約277万個を集めました。ペットボトルキャップ800個で1人分のワクチンとなるので、私たちは、ワクチンの本数にして2,562人分を達成したことになります。

### インクカートリッジ回収による発展途上国支援 (バングラデシュ・ネパール)

平成17年度から実施している活動です。校内の職員室・科務室(5学科の工業科職員室)などから回収しています。また、会社の方々が本校に持ってきてくれます。回収したインクカートリッジは、NPO法人シャプラニールを通して、バングラデシュ・ネパールの子供たちの絵本や筆記用具・教育費に役立てられています。



※ 回収しているキャップやジャージ、運動靴、インクカートリッジを保管しておく場所に困っていました。そこで、事務職員の方々に相談したところ物置きを提供していただき、多くの物資を保管できるようになりました。

### 記事掲載・お便り・感謝状など 「社会を元気にする高校生特集」で記事掲載 (学事出版 月刊高校教育)

読売中高生新聞掲載  
↓  
全国紙の社説掲載  
↓  
全国から支援物資(宅配便)

掲載された新聞を読まれた一般の方(福岡県北九州市)からいただいたお手紙と支援物資

↑ 平工業高等学校 (Taira Kogyo. H.S.)

アフリカ・マリ共和国より日本の支援団体へ感謝状

マリ共和国日本大使館 下野陽介氏 記念講演会 (国際理解について)

### 他校の高校生や地域社会と連携した活動

- (1) 日頃利用している駅の清掃活動 (駅前清掃(いわき駅・内郷駅) (他校の生徒会と合同作業))
- (2) いわき駅前駐輪場における自転車整備点検・防犯点検活動 (福島県警・いわき中央警察署)
- (3) いわきサンシャインマラソンにおける街頭応援活動 (平工生徒会・磐城応援団・小名浜鼓笛隊)
- (4) 地域の老人ホームや保育所への訪問活動 (かしま荘・小湊保育所)



### 支援活動・広報活動 など

防災に関する合同研修会  
熊本地震で被災した熊本県の県立高校4校を福島に招待して防災に関する合同研修会を実施(熊本県) 矢部・宇土・三船・松橋 高校(福島県) 平工業高校・平商業高校

ふくしま復興大使  
地元福島の復興の様子について報告

東京大学主催 公開講座(本郷キャンパス)  
地域社会の抱える問題点と具体的な対応について研究報告

力を入れている活動は多方面に渡りますが、わたしたちが住んでいる地域や開発途上国への支援活動を通じ、地域復興や国際貢献などの一助となれば、幸いに思います。

わたしたちのこれらの日々の活動に終わりはありません。地域社会で困っている人たちや国際社会で飢えや貧困で苦しんでいる人たちが、世の中はたくさんあふれています。世界から紛争や貧困が無くなり、地域社会から困っている人たちが少なくなることを心から願っています。

活動理念でもある「すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために」を心に刻み、地域社会が笑顔であふれることを強く信じて、これからも一歩ずつではありますが、「全校生徒」「教職員」「地域社会」がお互いに協力し合い、今後も自分たちができることから、地道に取り組んでいきたいと考えております。

